新連載

聖路加チーフレジデントが 夜の不安を吹き飛ばします

# ヨルレジ

聖路加国際病院 感染症科 医幹
編集●森　信好

聖路加国際病院 内科チーフレジデント
執筆●矢崎　秀　石井太祐
望月宏樹　孫　　楽

第1回

## 脳梗塞

望月 宏樹

### 今宵のメニュー

1. 脳梗塞と間違われやすい疾患を必ず除外する
2. 脳梗塞の初期対応を覚える
3. BAD の好発部位を覚える

## First night

—病棟のコールが一段落し，当直室のベッドで寝ようとしていた研修医の PHS が鳴る。救急外来に麻痺の患者が運ばれてきたようだ。

研修医：今日は呼ばれるなー。最近，なんか悪いことでもしたかなー。でも，何事も勉強だ。とりあえず，病歴の詳細を聞きに外来に下りるか。

—30 分後—

：チーレジ先生，右上下肢筋力低下を主訴に救急搬送された 80 歳女性について相談したいのですが……。

**糖尿病，高血圧，脂質異常症の既往のある 80 歳女性。夜間，右手足が動かしにくいとのことで救急搬送となった。神経所見で右上下肢筋力低下，意識障害を認めた。**

：上肢のバレー徴候も陽性ですし，脳梗塞が考えられるので，頭部 MRI をオーダーしたいのですが……。

チーレジ：脳梗塞を疑うことは大切だけど，初診では診断をすぐに 1 つに絞るのではなくて，必ず鑑別診断を考えることが大切だよ。低血糖などの代謝性疾患は脳梗塞と間違えられやすい疾患の筆頭だ。

**簡易血糖測定器で血糖値は 20 mg/dl であることが判明した。50%ブドウ糖を静注し，神経症状は速やかに改善した。追加の問診で，患者は糖尿病でインスリン治療を行っていたことがわかった。**

：何でもかんでも決めつけてかかるのはダメなんですね。

：僕も研修医 1 年目のときに，低血糖で片麻痺をきたした患者さんを診たことがあって，ブドウ糖静注で速やかに症状がよくなったんだ。今でも印象に残っている症例だよ。

**脳梗塞と間違われやすい疾患** [1)]

| | |
|---|---|
| 精神疾患 | ウェルニッケ脳症 |
| けいれん | 脳膿瘍 |
| 低血糖 | 脳腫瘍 |
| 片頭痛 | 薬物中毒 |
| 高血圧性脳症 | |





## Second night

—さらに別の日。今度は別の麻痺の患者が救急外来に来たようだ。

：さあ，今日は名誉挽回だ。

**糖尿病，高血圧の既往のある 85 歳男性。朝，起床時に左口角下垂と左上下肢筋力低下を認めたため，救急外来受診となった。感覚障害はなし。来院時の血液検査では，血糖値を含め，異常所見は認めなかった。また，頭部 CT でも異常所見はなかった。**

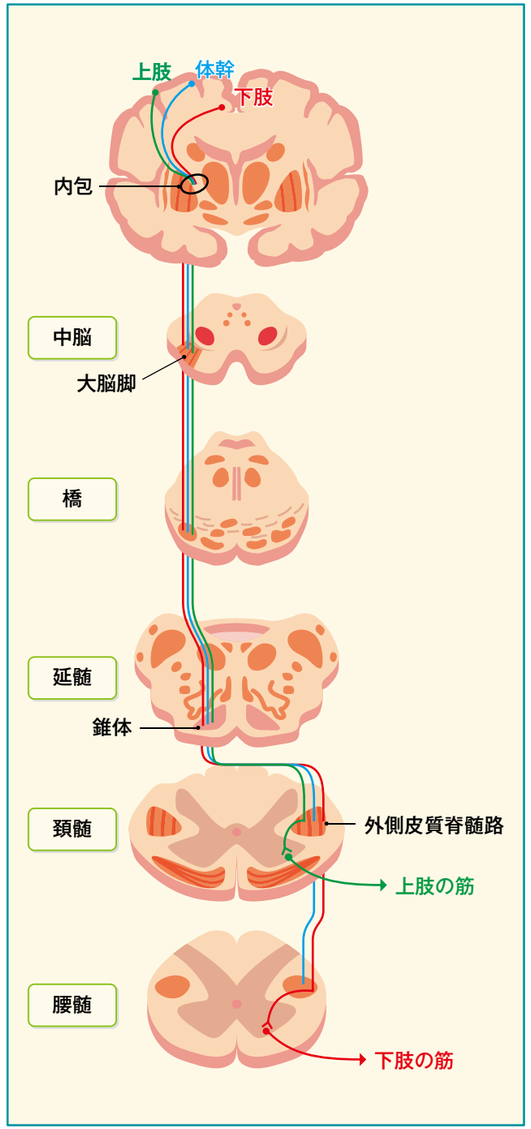
：先生，今度こそ脳梗塞の可能性が高いと思うんですが。

：そうだね，病変の場所はどこだと思う？

：MRI を撮ればわかるんじゃないですか？

：脳梗塞診療では神経学的所見から局在を予想することが大切だよ。とくに当直では夜に MRI が撮れないこともあるからね。

：わかりました。運動麻痺が起こっているので，錐体路のどこかですか？

：そうだね。pure motor hemiparesis（純粋運動性片麻痺）の場合，内包後脚や橋腹側が病変としては多いよ。

**錐体路** [2)]